

2022年度以降入学生用 常磐大学大学院 人間科学研究科 博士(後期)課程 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

- 建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。
 教育理念 自立・創造・真摯
 研究科の教育研究上の目的 (1)専攻分野について自立した研究者として研究活動を推進し、その成果をもって学術および文化の振興に寄与できる研究者および教育者を養成する。
 (2)専門的な職務に従事するために必要な研究能力および専門的知識を身につけて、社会の各分野で活動して社会一般の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を養成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目						卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)
(2) 実施方針	(1)編成方針 人間や社会にまつわる諸科学を極めるために、生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、被害者学、社会福祉学など、人間追究に欠かせない諸科学を集め、学際的、複眼的に人間をとらえることができるように以下の2つの領域でカリキュラムを編成しています。第一領域では、「人間に関わる真理」と「人間に関わる問題」を、これまでの生命科学、心理学、精神医学、教育学などの知見を関連させながら、科学的に究明できるような科目を配置しています。第二領域では、人間の本質と、社会と個人の結合原理を理論的、実証的に考究する領域です。個人から集団・社会、そして国際社会に至る人間のコミュニケーション行動を理解するために、主として社会学と社会心理学、コミュニケーション学、組織科学、情報と社会、被害者学、地域振興と地域福祉学の視点から研究するための科目を配置しています。	1年次		2年次		3年次		本研究科は、人間科学の専攻分野について、自立した研究活動を推進し、学術、文化の振興に寄与できる研究者、および高度な専門的知識を身につけて社会の福祉の増進に寄与できる高度専門的職業人を育成します。 1.人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見だし、自立した研究者または高度に専門的な業務の従事者として社会一般の福祉の向上に貢献できる。 2.人間科学の専攻分野と関連領域において、奥深く研究した高度な専門的能力を基礎に、世界的視野で考え、当該分野でリーダーとして問題解決を指導できる。
	春semester	秋semester	春semester	秋semester	春semester	秋semester		
	博士論文合同特殊演習Ⅰ	博士論文合同特殊演習Ⅱ						
		人間の発達と適応特殊研究 人間と社会・コミュニケーション 特殊研究	人間の発達と適応特殊演習 人間と社会・コミュニケーション 特殊演習					
			博士論文研究ⅠA、 博士論文研究ⅡA	博士論文研究ⅠB、 博士論文研究ⅡB	博士論文研究ⅠC、 博士論文研究ⅡC	博士論文研究ⅠD、 博士論文研究ⅡD		

博士の学位授与

常盤大学大学院 人間科学研究科 博士課程(後期) 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	SDGsの17のゴールとの関連	
										◎	●
共通	博士論文合同特殊演習 I	演習	1	○	第1セメスター	1		博士論文のテーマとその意義及び主たる研究方法・アプローチを明確にする。	(1) 博士論文のテーマを絞り込み、その研究方法・アプローチについて理解を深めることができる。 (2) 博士課程で必要とされる研究倫理を理解し、説明することができる。	◎	
	博士論文合同特殊演習 II	演習	1	○	第2セメスター	1		博士論文の研究課題(リサーチクエッション)と先行研究の水準を確定する。	(1) 博士論文の研究課題を明確にし、先行研究の水準を確定することができる。 (2) 博士課程で必要とされる研究発表のスキルを高めることができる。	●	
第 I 領域 人間の発達と適応	博士論文研究 I A	演習	2	○	第3セメスター	2		行動生態学もしくは比較認知科学の分野における博士論文の執筆を念頭においた研究手法について指導を行う。授業では、博士論文の完成に向けて段階的な指導を行う。研究テーマの設定、研究目的の絞り込み、関連文献のレビュー、理論的枠組み、研究計画の立案といった論文執筆以前の重要な研究について指導する。	博士学位請求論文を完成させるために必要な基礎的スキルを身につける。具体的には、次のとおりである。 (1) 研究倫理の課題を理解し、説明することができる。 (2) 研究テーマについて複数のパイロットスタディを実施することができるための具体的な研究計画を立案することができる。	◎	
	博士論文研究 I B	演習	2	○	第4セメスター	2		学位請求論文の執筆を念頭においた具体的な研究手法についての指導を行う。研究計画に基づき情報を収集、収集した情報の分析等について指導する。	博士学位請求論文を完成させるために必要な応用的スキルを身につける。具体的には、次のとおりである。 (1) 研究テーマについて複数のパイロットスタディを実施することができる。 (2) 収集した情報の分析等を通じて、自身の研究計画を適切に修正することができる。	◎	
	博士論文研究 I C	演習	2	○	第5セメスター	2		研究計画に基づいて研究を推し進め、必要なデータの追加収集と分析等について指導を行う。	博士学位請求論文を完成させるために必要な発展的スキルを身につける。具体的には、次のとおりである。 (1) 自身の実施した調査、実験等により収集した情報の分析等に基づき、論文にまとめることができる。	●	
	博士論文研究 I D	演習	2	○	第6セメスター	2		博士学位請求論文を完成させるために必要な指導を行う。	(1) 研究計画に基づく研究成果を、博士学位請求論文として完成させることができる。	●	
	人間の発達と適応特殊研究	講義	2	○	1・2	2		人間の発達と適応に関する研究の近年の主たる動向を講義する。	(1) 人間の発達と適応に関する研究の近年の主たる動向について理解を深め自身の研究課題と意義を明確に示すことができる。	○	
	人間の発達と適応特殊演習	演習	2	○	1・2	2		人間の発達と適応に関する研究の近年の方法について演習する。	(1) 人間の発達と適応に関する近年の研究の近年の研究手法について理解を深め自身の研究課題解決に活用することができる。	○	
第 II 領域 人間と社会・コミュニケーション	博士論文研究 II A	演習	2	○	第3セメスター	2		学位請求論文の執筆を念頭においた具体的な研究手法についての指導を行う。研究テーマの設定、研究目的の絞り込み、関連文献のレビュー、理論的枠組み、研究計画の立案といった論文執筆以前の重要な研究について指導する。	博士学位請求論文を完成させるために必要な基礎的スキルを身につける。具体的には、次のとおりである。 (1) 研究倫理の課題を理解し、説明することができる。 (2) 研究計画に基づき、自身の研究を進めることができる。	◎	
	博士論文研究 II B	演習	2	○	第4セメスター	2		学位請求論文の執筆を念頭においた具体的な研究手法についての指導を行う。研究計画に基づき情報を収集、収集した情報の分析等について指導する。	博士学位請求論文を完成させるために必要な応用的スキルを身につける。具体的には、次のとおりである。 (1) 自身の研究に必要な情報を取得するために必要な調査、実験等を適切に選択することができる。 (2) 自身の実施した調査、実験等により収集した情報を適切に分析することができる。 (3) 収集した情報の分析等を通じて、自身の研究計画を適切に修正することができる。	◎	
	博士論文研究 II C	演習	2	○	第5セメスター	2		研究計画に基づいて研究を推し進め、必要なデータの追加収集と分析等について指導を行う。	博士学位請求論文を完成させるために必要な発展的スキルを身につける。具体的には、次のとおりである。 (1) 自身の実施した調査、実験等により収集した情報の分析等に基づき、論文にまとめることができる。	●	
	博士論文研究 II D	演習	2	○	第6セメスター	2		博士学位請求論文の完成させるために必要な指導を行う。	(1) 研究計画に基づく研究成果を、博士学位請求論文として完成させることができる。	●	
	人間と社会・コミュニケーション特殊研究	講義	2	○	1・2	2		自身の博士学位請求論文の研究遂行にあたり必要になる人間と社会・コミュニケーションにかかわる社会学、教育社会学、コミュニケーション学、組織科学の知識について総合的・学際的な視点から学修する。	(1) 自身の研究テーマに関連する広範な学識を身につけ、説明することができる。 (2) 博士学位請求論文のテーマを、総合的・学際的な視点から捉えて研究遂行することができる。	○	
	人間と社会・コミュニケーション特殊演習	演習	2	○	1・2	2		「人間と社会・コミュニケーション特殊研究」で学修した内容の理解を深め、自身の博士学位請求論文の研究遂行において、人間と社会・コミュニケーションにかかわる社会学、教育社会学、コミュニケーション学、組織科学の知識を総合的・学際的な視点から活かすために必要なスキルを身につける。	博士学位請求論文を完成させるために必要な知識とスキルを身につける。具体的には、次のとおりである。 (1) 自身の研究テーマに関連する広範な学識を博士学位請求論文に活かすことができる。 (2) 博士学位請求論文のテーマを、総合的・学際的な視点から捉えて研究遂行に活かすことができる。	○	